

[道 徳]

自己の生き方を考える子どもの育成をめざした道徳教育の実践 ー道徳及び総合的な学習の時間を合科的に扱う単元構成の工夫を通してー

本間 浩之*

1 主題設定の理由

平成20年に改訂された学習指導要領において、道徳の時間の目標について、新たに「自己の生き方についての考え」という文言が加えられ、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め」とされた。その理由として、「道徳の時間が人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的価値を学び、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深め、道徳的实践力を育成するものであることをより明確にするため」と学習指導要領には示されている。これらのことから、小学校段階の内から、道徳の時間の中で、自己を見つめ、今の自分、そしてこれからの自分の在り方や生き方に対し考えを深めていけるような授業がより必要になっていると言える。しかし、「自己の生き方を考える」ことは、小学生の子どもたちにとって容易なことではない。そのため、道徳の時間だけにとどまらず、他教科、領域や教育活動全体の中でこのことについて考えを深めていく機会を設定していくことが肝要である。

一方、他教科、領域に目を向けてみる。道徳のように「自己の生き方を考える」ということを目標の1つに据えている教科、領域に総合的な学習の時間（以下：総合学習）がある。総合学習の学習指導要領の目標には、「自己の生き方を考えることができる」とは、「一つには、人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていく、二つには、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと、これらの二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることが三つ目」と記されている。また、大切なことは、「具体的な活動や事象とのかかわりを拠り所として、多様な視点から考えさせること」とされている。このこともやはり上述したように、小学校段階において「自分の生き方」を考える子どもを育成するためには、一つの教科、領域だけの枠を超え教育活動全体を通して指導していく必要性を示している。

しかしながら、これまでの「自己の生き方を考える」子どもの育成を試みた実践の多くは、一つの教科や領域内の実践に止まるものが散見される。本来「自己の生き方」をテーマとして扱う際、単発の活動ではなく、連続的継続的な活動でなければならないと考える。なぜなら「生き方を考える」とは自己との対話であり、自己への問い続けであると考えからである。そのことを子どもの活動として具体化していくためには、教科・領域にまたがる合科的な単元を構成する必要があると考える。

そこで、「自分の生き方を考える」ことを目標に据えた道徳の時間と総合学習の時間を合科的に単元構成をする。そうすることで、総合学習で行われた道徳教育が道徳の時間で補充、深化、統合されると同時に、道徳の時間で行った指導が「自分の生き方を考える」ことにさらに波及し、生かされていく効果があるのではないかと考えた。このような考えに基づき、道徳の時間を要として、自己の生き方を考える子どもの育成をめざした道徳教育の実践を行った。

2 研究の目的

本研究は、道徳及び総合学習を合科的に扱った単元構成を工夫して、「自己の生き方を考える」活動を継続的に行うことにより、子どもが出会う地域人材から道徳的価値を学び、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深めるようになることを検証するためのものとする。

効果の検証においては、A～C児の3名の子どもを抽出し、ワークシート、発言、及び行動変容などでその姿を追う。なお、抽出については、活動への取組の様子や学習時での発言等の意欲面において、平均的と判断される群からA・B児を、意欲的と判断される群からC児をそれぞれ抽出した。

* 新潟市立小瀬小学校

3 研究の構想

上記の目的を達成するために、道徳と総合学習を合科的に扱う単元構成を工夫する。その際、道徳の時間に特に二つの意図をもって総合学習と関連させることで、より一層の道徳教育の充実を図る。

(1) 総合学習による道徳的価値の気づきを、より「深化」させるための道徳の時間の位置付け

学校で行われる教育活動は、何らかの道徳的価値に関わりがある。しかし、それらの活動を通して道徳的価値の意味などについて考えたり話し合ったりして、それらを深めることができていない。そこで本研究の単元では、道徳の時間を総合学習による道徳的価値の気づきをさらに発展させるために、その意味や自己との関わりについての考えを「深化」させる時間として位置付けることとする。

(2) 新たな道徳的価値を生み出す、「統合」の役割を果たす道徳の時間の位置付け

「児童は、道徳的価値に関わる多様な体験をしたとしても、それぞれがもつ道徳的価値相互の関連や、自己との関わりについての全体的なつながりなど考えないままに過ごしてしまうことがある」と押谷（2013）は述べている。であるならば、意図的に子どもが道徳的価値に関わる多様な体験をしたことを、「統合」する場が必要であると言える。そうすることで、子どもに新たな感じ方や考え方を生み出させることができるようになる。そこで本研究で作成する単元では、道徳の時間を、子どもが新たな感じ方や考え方を生み出させることができるようにするための「統合」の場としても位置付けていく。具体的には、地域人材と出会う総合学習での道徳的価値の気づきを、子どもたちが相互の関連性や自己との関わりをより深く考えていけるように、道徳の時間を多時間多項目で行うこととする。

4 実践の概要

- (1) 単元名 道徳と総合学習の合科的単元 「情熱ズームイン！」
- (2) テーマ 「小瀬地区」や「郷土新潟」の人々と関わり、人の生き方を学び、自分の生き方や生活を見つめよう！
- (3) 対象児童 6年生 21名
- (4) 単元の指導計画 全56時間（道徳6 総合学習56）

表1 道徳と総合学習の合科的単元「情熱ズームイン！」の指導計画（20時間分の他の活動は記載していない）

月	総合学習の活動内容	道徳との関連（深める道徳的価値）
5	【出会う・つかむ】 情熱ズームイン！ ～新潟の情熱人に出会おう～(10) ○中野小屋地区の農業の達人	【深める】 道徳1 内容項目1－(2) 勤勉・努力 道徳2 内容項目3－(2) 自然愛 道徳3 内容項目1－(2) 希望・勇気 道徳4 内容項目4－(7) 郷土愛
6	○佐潟を守る自然を愛する人 ○新潟総踊りに情熱を燃やす人 ○日本海夕日コンサートに思いをもって取り組む人	
7	【追究する】	
9	修学旅行でふるさとPR ～新潟情熱マップを作ろう～(20)	
10	・わたしのおすすめ情熱人は？ ・新潟PRを成功させるには	【まとめる】 道徳5, 6（多時間多項目の授業） 関連する価値項目 内容項目1－(2) 希望・勇気・勤勉努力 内容項目3－(2) 自然愛 内容項目3－(7) 郷土愛
11	・おすすめ情熱人発表会 ・活動発表会をしよう	
12	みずほ園にズームイン！(10) わたしたちにできることを考えよう	
1		
2	【広げる】 自分にズームイン！ ～卒業論文を作ろう～(8) 自分にズームイン！ ～卒業スピーチをしよう～(2)	
3		

(5) 活動の実際

5年生の時に稲作や地域について総合学習で学んだ子どもたちである。6年生になった春、総合学習についてのテーマを話し合う際、これまでの活動でたくさんの人と関わりお世話になってきた経緯から、子どもから「地域の人について学習をしていきたい」という声が聞こえてきた。そこで、テーマを「情熱ズームイン！」と題し、自分たちの住む地域（新潟市西区）の情熱をもって物事に取り組んでいる人たちに会い、自分の生き方にまで考えを深めていけるように、道徳との合科的な活動単元を組むことにした。

また総合学習の活動には、子どもたちの意識が継続していくように、9月の修学旅行での「新潟アピール活動」や学習発表会での「成果発表」、そして卒業に向けた「卒業論文」、「卒業式スピーチ」など、考えを広げ、発信する場を設けるようにした。なお活動の実際については、総合学習で行われた道徳教育に関連する部分と、道徳の時間に関連する部分を中心に述べていくこととする。

① 【出会う・つかむ】地域の情熱人との出会い

子どもたちに出会わせる情熱人は、新潟市内で活躍している人に絞って選定した。選定は、「新潟アピール活動」に向けて子どもたちが主体的に考えた「新潟や小瀬地区の自慢できる人・もの・場所」のイメージマップをもとに行った。本活動でゲストティーチャー（以下：GT）として依頼した情熱人の方たちは、中野小屋地区の農業の達人、佐潟の自然を守る人、新潟総踊りに情熱を燃やす人、日本海夕日コンサートを全国に広めようと活動する人の4名であった。いずれも、自己の目標に向かって一心に努力する姿、地域をよりよくしようと尽力する姿を強く感じることができ素晴らしい方々であった。特に、子どもたちの近隣に住む中野小屋地区の農業の達人の小出さんは地域の協議会会長でもあり、日々地域のため子どもたちのために尽力されている方である。学級の子どもたちのほとんどは、小出さんの名前や顔については既に認識している状況であった。

活動に際しては、事前に活動概要やテーマを伝え、GTとなる情熱人の方々に活動のねらいを十分に理解していただくようにした。また、子どもたちが活動に見通しをもって取り組んでいけるように、毎回以下のような活動の流れを定めて実施するようにした。

事前活動 GTについての事前の調べ活動 → ⑦ GTのお話 → ④ 交流活動 → ⑤ 質問タイム → ⑥ メッセージ色紙の依頼 → ⑧ 写真撮影 → **事後指導** 礼状書き

《中野小屋地区の農業の達人 ～小出さんにズームイン！～の活動後のワークシートの記述から ※一部抜粋》

- A児・・・小出さんから書いてもらった「希望」という言葉は、とてもいい言葉だと思う。小瀬の米がおいしくなるといいです。東京の修学旅行では、小瀬の米や小出さんのことをいっぱいアピールしようと思う。
- B児・・・小出さんは、「今はおいしい米がたくさんとれることが夢」と言っていました。地域の農業のためにがんばっている小出さんはすごいと思いました。
- C児・・・小出さんは、小瀬地区の農業が発展するために、ずっと努力してきた人だと知りました。私たちがおいしい農作物を食べられるのは、小出さんたちのおかげだと思いました。

「情熱ズームイン」の1回目の活動となったこの回、A、B児をはじめ多くの子どもたちの記述からは、まだ小出さんの生き方、そして自己の生き方について考えを深めている子どもはあまり見られなかった。一方で、C児のように小出さんのこれまでの取り組みや生き方に共感し、感謝の念を抱く子どもは少なからずいた。

② 【深める】ための道徳授業（深化）

総合学習で出会った情熱人から学んだり感じたりした道徳的価値の意味や自己との関わりについて、上述したように、やはりまだ十分に深めることができなかった子どもが多くみられた。そこで、以下のような道徳の授業を仕組み、道徳的価値のさらなる高まりを目指した。ここでは、表1に示した道徳1「中野小屋地区の農業の達人 ～小出さんにズームイン！～」の授業で作成した指導略案を示す。

単元名	中野小屋地区の農業の達人 ～小出さんにズームイン！ 1－(2) 勤勉・努力
ねらい	小出さんとの出会いや交流から、夢や希望をもって生きることの大切さに気付くとともに、その夢や希望を実現するために今自分が何に取り組む、どのように努力をすることが大切なのかを考えることができる。

学習内容	教師の働きかけ	・留意点 ◆評価
1 総合学習で活動を想起し、小出さんのすごいところを発表する。	T 1 小出さんのすごいところって何でしょうか。	・現在の稲作が昔に比べて非常にコストのかかるようになってきたことを視覚的に理解できるように図を提示する。
2 小出さんの話をもとにして作られた、昔と現在の米の値段や稲作にかかる諸経費の比較表を見て、稲作のコストが昔と現在でどの程度違うのかを理解する。	T 2 図からどんなことを考えたか発表しましょう。 T 3 それでもなぜ小出さんは稲作に取り組んでいるのだろう。	
3 小出さんがそれでも稲作に取り組む理由を考える。	地区コミュニティの会長として、稲作に懸命に取り組む思いや、自分たちの地域を自分たちで守らなければならないという思いを再度語っていただく。	
4 小出さんのビデオレターを視聴する。		
5 小出さんが書いてくれた「希望」という色紙のメッセージの意味について話し合う。	T 4 小出さんはどのような気持ちでみんなに「希望」のメッセージを書いてくれたでしょうか。 T 5 もう一度聞きます。小出さんのすごいところって何ですか。お話をしてくださった小出さんに、お礼状を書きましょう。	◆夢や希望をもって生きることの大切さに気付くとともに、そのために今自分がどのように努力していくべきかを考えることができる。
6 小出さんにお礼状を書く。		

《授業で子どもが記述した礼状から ※一部抜粋》

- A児・・・小出さんありがとうございました。小出さんの1番すごいところは、どんなに大変でも目標をもってあきらめなかったことです。ぼくはサッカーをしているので、試合に勝つために、毎日自分でもちゃんと練習をしようと思いました。
- B児・・・小出さんは、地域のことを考えて農業をがんばっているのだからやっぱりすごいと思います。ぼくはそんなことはあまりしたことがありません。でも小出さんの話を聞いたり、「希望」の色紙のことを考えたりして、ぼくも目標をもってがんばらないとなと思いました。
- C児・・・私はいつもすぐあきらめてしまうことがあります。私も小出さんのようにどんなにつらいことや大変なことがあっても努力したいと思います。私には看護師になる夢があります。今はしっかり勉強をして夢をかなえます。

道徳の時間で書かれたお礼状には、それぞれ小出さんの思いや考え方に触れた子どもたちの感想が率直に書かれた様子が見られた。A、B児については、「小出さんはすごい」という感想から、具体的にどんなことがすごいと思うのか、また、そこから自分との関わりに目を向けて、これからの自分についての記述をするような変化が見られた。C児については、これまでの共感を超え、具体的に自分の夢実現のためにどのように取り組んでいくことが大切なのかということまで考えが及んでいることが分かる。

これらのことから、総合学習での出会いだけでは十分に深まらなかった小出さんから学んだ道徳的価値に気付く姿や、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深めようとする子どもの姿が見られたことは、深化の場として位置付けた道徳の時間が大きく影響していると言える。

③ 【まとめる】ための道徳授業（統合）

G Tとのかかわりから、それぞれの方々から学んだり感じたりした道徳的価値を、子どもたちは自分と関わらせながら深めてきた。表1に示した道徳5、6の時間では、それぞれのG Tがもつ道徳的価値の相互の関連や自己との関わりにおいての全体的なつながりについて考えていけるよう、これまでの学びを統合するために2時間にまたがる複数の価値項目（表1参照）をねらいとした授業を構成した。また、これまでのG Tのメッセージや語った言葉、授業で子ども自身が書き記してきたワークシート（自己との対話や他者について深く考えていることが分かる文章に、教師が赤で下線を引いたもの）などを資料とした。「これまでにみんなが会ってきた情熱人のみなさんに共通するところはどんなところだろう。」という問いかけには、たくさん子どもが発言をした。しかし、共通点として子どもが感じ取ったその内容は、決して皆同じものではなく、あきらめず努力をする姿、責任感をもって社会的な役割を果たしていく姿、あるいは地域のために貢献する姿など、多くの道徳的価値をそれぞれの子どもが、出会った情熱人から共通点として感じ取っていた。



【写真1 子どもに語りかける小出さん】

《授業で子どもが記述したワークシートから ※一部抜粋》

- A児・・・みんながんばっていることは違うけれど、Dさんが言ったように（授業中の子どもの発言）、みんな夢や目標に向かって、失敗してもあきらめずにやっているところは同じでした。ぼくも目標があるけれど、まだ少ししかがんばっていません。「努力が大切」という言葉を忘れずにがんばりたいです。
- B児・・・みんなやっぱり立派な人ばかりだと思いました。なぜかと言うと、小出さんも、能登さんも、佐藤さんも、齊藤さんも周りや地域を良くしようとがんばっているからです。だれかのためにがんばることがやっぱりぼくはすごいと思います。
- C児・・・話をしてくださった情熱人の人たちは、どの人も目標をもって努力する人ばかりでした。自分の決めたことをあきらめずにやれる人はやっぱりすごいです。それにはやっぱり努力がいるんだなと思いました。私はいつもうまくいかないことがあるとすぐにやめたくなるけれど、あきらめずにがんばることが大切だと思いました。

このように、出会った情熱人から感じ取った多くの道徳的価値、または生き方を関連させて考える活動を通し、子どもたちは「よりよく生きるとは何か」を自己に問いかけるようになったと考える。それは、自分たちのこれからの人生において、「私もこうしたい」といった力強い実践的な意欲が、子どもたちの発言や記述からも表出されるようになったことから言える。子どもたちのこのような姿は、出会った情熱人から学んだ多くの道徳的価値を自己の生き方に結び付けながら自覚を深めていく姿、と言えるのではないかと私は考える。

④ 【広げる】これまでの自分、これからの自分を考える

情熱人として出会ったG Tの共通点を話し合うことで、それぞれがもつ道徳的価値の関連や、それを自己の生き方に結び付けて考える子どもが多く見られるようになった。本単元では、それらのことを発信する場として、⑦東京修学旅行でのPR活動、①学習発表会や学級での成果発表、⑨卒業に向けての卒業論文制作、及び卒業式でのスピーチなどを設けた。それぞれが特に自分が共感したり感銘を受けたりした情熱人を選び、活動に対して意欲的な取り組みを見せていた。

⑦ 学習発表会や学級での成果発表

子どもたちの学習の成果を発表する場として、学級内で「わたしのおすすめ情熱人」と題した個人追究活動の中間発表会を設けたり、学習発表会の場を活用したりした。学級内での発表は、出会った情熱人の中から、自分が一番共感したり感銘を受けたりした方を選び、その理由をさらに明確にし、それぞれがポスターセッション形式でPRする形で行われた。この活動を東京修学旅行でのPR活動へとつなげていった。

① 東京修学旅行でのPR活動

「修学旅行でふるさとPR」と題したこの活動では、東京の表参道にある新潟のアンテナショップ「ネスパス」の場をお借りして、街ゆく人たちに対して自分のおすすめ情熱人や自校のPRを記した「新潟情熱マップ」を配ったり、地区で獲れたお米をプレゼントしたりした。初めは恥ずかしそうにしていた子どもたちであったが、少しずつ慣れてくると、街ゆく人たちに対して、自信をもって「新潟情熱マップ」を手にしながら、自らのおすすめ情熱人やふるさとのPRをする姿が見られるようになった。

⑨ 卒業に向けての卒業論文制作、及び卒業式スピーチ

活動のまとめとして、卒業論文制作、及び卒業式スピーチの場を設けた。卒業論文作成では、400字詰め原稿用紙30枚を目標に、「生まれてからこれまでの自分」、「情熱ズームイン」の活動で学んだこと、「未来に向けたこれからの自分」の3章立てで制作するようにした。初めは、原稿用紙の量に圧倒されていた子どもたちであった。しかし、これまでの出会いから考えたことや、豊富な体験活動で得た思いに支えられた子どもたちは、目標であった30枚を軽くクリアすることができた。

また、卒業式では、これまで当校の伝統として行われていたスピーチに変容が見られた。従来は学校生活での経験を生かしてこれからがんばっていくことを決意発表として行っている子どもがほとんどであった。しかし、本学級の中にはG Tとして出会った情熱人から学んだことや、自分がどのように生きていきたいかなどを力強くスピーチする子どもがほとんどであった。卒業式当日、これまでの活動の中で、「地域のために貢献しようとする情熱人の姿」に今後の自己の生き方を関わらせて考えを深めるようになったB児は、胸を張って以下のようなスピーチをして小学校を巣立っていった。



【写真2 新潟情熱マップを手にしてPRをする子どもの様子】



【写真3 卒業式でスピーチする子どもの様子】

《B児の卒業式でのスピーチ》

僕は今年、総合学習の勉強で「米作りの達人」小出さんに出会いました。自分のことだけではなく、人のためや地域のためにがんばる小出さんは本当にすごいと思いました。目標に向かって希望をもって努力することの大切さを学びました。ほかにもいつか、地域のために役に立てる人になれるよう、目標に向かって必ず努力していきます。

5 成果

ここでは、合科的な単元構成の工夫として、研究の構想で記した「道徳の時間に特に二つの意図をもって総合学習と関連」させたことの成果をそれぞれ考察することとする。

(1) 総合学習による道徳的価値の気づきを、より「深化」させるための道徳の時間の位置付けについて

冒頭でも述べたが、「自己の生き方」について小学校段階の子どもが考えを深めていくことは、子どもにとって難しいことだと考える。しかし、本研究で行った道徳、及び総合学習を合科的に扱った単元構成は、子どもが会える地域人材から道徳的価値を学び、それを自己の生き方に結び付けながら自覚を深めるようになることに對し、効果を示したと言える。

それはまず、本単元の構成により「自分の生き方」を考える題材や活動を集中的に行ったことで、子どもの意識が他者の生き方への共感から自分の生き方へと向かったことからとも言える。総合学習でのG Tとの出会いだけでは深まらなかった他者や自己への生き方への考えの深まりが、その後の「深化」の目的で位置づけられた道徳の時間でさらにその人物の生き方に焦点を当てたことで、子どものたちの記述などにその変容が表れていた。

また、年間を通して「自分の生き方」を1つのテーマとして扱ったことで、継続的に子どもの思考をつなげていくことができたと考える。これは1つの教科や活動だけでは内容や時数的に制限があるために、合科単元にした効果であった。

(2) 新たな道徳的価値を生み出す、「統合」の役割を果たす道徳の時間の位置付け

本活動で、子どもたちは4名のG Tと出会った。その他に、子どもたちは社会科見学を始めとする他教科で、専門性をもつ人材や学習ボランティアの方々など、多くの人々と関わりを深めた1年であった。そのような中で、活動を進めるとともに、他教科でのねらいの他に、出会った方々から人間的な魅力を見つけ出したり、生き方に共感して様々な道徳的価値を学び取ったりする子どもが多く見られるようになってきた。子どもたちが「自分の生き方」への考えを深めていくことに対しての影響を与えていたのは総合学習で出会ったG Tだけでなく、上述したような人物の影響も少なからずあったと言える。これらのことは、本単元の構成の工夫として、出会った人物の道徳的価値の相互の関連や自分とのつながりを考えさせるための「統合」として道徳の時間を位置付けたことの成果と言える。子どもたちは日々、教育活動全体の中で道徳的価値について考えたり学んだりする場に遭遇している。しかし、そのことを自覚しないまま過ごしていることが多々あるように感じる。本単元の構成は、子どもたちが日常生活で出会った人や体験したことなどをただ漫然とやりすごすのではなく、「自分の生き方」とそれらの出会いを関わせながら考えるきっかけを与えることができたと考える。

6 課題

道徳の時間と総合学習を合科的に単元構成した本研究では、もう一つの効果として実感を伴う出会い（人物、事象、体験）が子どもたちにより効果をもたらしたことが言える。なぜなら、そのような出会いを通して子どもたちの心が揺れ動いた時、本当の意味で子どもたちが真剣に「自分の生き方を考える」ことにつながり、ひいてはそのことが「自分もよりよい生き方をしたい」という願いにつながったことが、ワークシートや発言から感じ取れたからである。しかし、それらのことが、道徳的実践力としてどのように表れたかを検証することはできなかった。私は、「自分もよりよい生き方をしたい」という強い願いこそが道徳実践意欲の源になると考える。今後はそのことを検証するためにも、「自分の生き方を考える」子どもの育成には、道徳と総合学習の合科単元だけでなく教科、領域をさらに広げた単元構成の工夫や、子どもの成長とともに、系統的な指導計画を立てて成果を見取っていく必要があろう。

7 参考・引用文献

- 1) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 道徳編」2008年
- 2) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」2008年
- 3) 押谷 由夫 「道徳教育の充実に関する懇談会」における議論の展望『月刊 教職教養』教育開発研究所 2013年
- 4) 赤堀 博行 「道徳の時間を要とした道徳教育の展開」『内外教育』時事通信社 2013年